



日本学術会議 公開シンポジウム

「新しい国際単位系 (SI) 重さ、電気、温度、 そして時間の計測と私たちの暮らし」

主 催： 日本学術会議 物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会、化学委員会 IUPAC 分科会

共 催： 一般社団法人 日本物理学会（予定）、公益社団法人 日本化学会、
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター

日 時： 平成30年12月2日（日）13:00～17:10

場 所： 日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34 東京メトロ千代田線乃木坂駅5番出口すぐ）
<http://www.scj.go.jp/ja/other/info.html>

開催趣旨： 私たちが使っているキログラム (kg)、秒 (s)、ケルビン (K) などの単位は、国際度量衡総会において、国際的な取り決めによって決められています。来年5月からこの単位についての取り決めが大きく変更される予定です。新しく施行される国際単位系は、唯一人工物によって定義されているキログラムを、自然界を支配するいくつかの「定数」を使って定義します。

人間が恣意的に決めた単位は、科学技術の発展とともに、自然の中にある原理を使ったものに置き換えられてきましたが、今回の改定でこの取り組みがとうとう完成します。日本学術会議では、この機会に、単位の制定の背景にある、自然の原理や科学技術の発展、今後の進展などを広く展望するシンポジウムを開催します。学生、研究者、教育関係者、技術者等などのご来聴を歓迎します。

13:00-13:10	開会挨拶 渡辺 美代子（日本学術会議 副会長、国立研究開発法人 科学技術振興機構 副理事）
13:10-13:30	「標準改定の歴史、今回の改定と今後」 臼田 孝（国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター 総合センター長、国際度量衡委員）
13:30-14:00	「国際単位系 (SI) の定義改定が拓く新しい計測技術」 藤井 賢一（国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター 首席研究員、CODATA 委員）
14:00-14:30	「新元素の名前と化学記号の決定および原子量の新たな表記」 巽 和行（名古屋大学 名誉教授、日本学術会議連携会員、化学委員会 IUPAC 分科会）
14:30-15:00	「新単位系を支え、新単位系に支えられる物性物理学」 勝本 信吾（東京大学 物性研究所 教授、物理学会理事）
15:00-15:10	質疑応答
15:10-15:25	休憩
15:25-15:55	「新しい時間をつくる、使う」 香取 秀俊（東京大学大学院 工学系研究科物理工学専攻 教授、理化学研究所 香取量子計測研究室 主任研究員）
15:55-16:25	「精密時空時計測が拓く重力波天文学」 三代木 伸二（東京大学 宇宙線研究所 准教授）
16:25-16:55	「長さの定義改定がもたらした長さ計測の進展」 美濃島 薫（電気通信大学 情報理工学研究所基盤理工学専攻 教授、日本学術会議連携会員、総合工学委員会委員）
16:55-17:05	質疑応答
17:05-17:10	閉会挨拶 野尻 美保子（高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 教授、日本学術会議第三部会員、物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会委員長）

問い合わせ先： 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター 計量標準普及センター 計量標準調査室
TEL：029-861-4118

参加申し込み用 URL https://www.nmij.jp/public/event/2018/scj-symposium_2018/